

立正大学博物館年報

7

平成 20(2008) 年度

立正大学博物館

序

開館 7 年目にあたる平成 20 年度には、企画展として 6～7 月に「梵鐘」、特別展としては 11 月に「吉田格・縄文文化研究の業績」を、博物館所蔵資料の主体をなす梵鐘と縄文土器を中心として開催した。立正大学博物館が誇る所蔵資料を対象としたものである。

また博物館が所在する熊谷校地の 3 学部の学生のみではなく、5 学部生が所属する大崎校舎においては移動展示を実施し、関連する講演も行った。

大学博物館機能の重要な部分を担っている「博物館館務実習」は 8・9 月に 2 回実施し、新たに「刀剣の取り扱い」も組み入れた。

このように博物館の通常業務を実施してきたところであるが、教育施設としての大学博物館には、より一層の努力が望まれることは明白であろう。特色ある活動を継続して実施するためには、より充実した体制の確立が望まれるところである。

平成 21 年 4 月

博物館長 池上 悟

目 次

序	
目次	
I. 博物館の概要…………… (2)	II. 事業報告…………… (13)
(1) 組織と職員	(1) 開館日数・入館者数
(2) 立正大学組織表	(2) 出 版
(3) 立正大学博物館規定	(3) 資料活用
(4) 立正大学博物館細則	(4) 常設展示・企画特別展示
(5) 施 設	(5) 調査・研究
	(6) 教育普及
	(7) 寄贈資料
	III. 寄贈図書目録…………… (21)

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長	池上 悟	横山幸永	(経済研究所長・経済学部教授)
専門職員	内田勇樹	鷲尾祐喜義	
事務嘱託	亀田洸一郎		(社会福祉研究所長・社会福祉学部教授)

第4号委員

第5号委員

秋田貴廣	(博物館関係学識経験者・仏教学部教授)
------	---------------------

第6号委員

野沢佳美	(文化史関係学識経験者・文学部准教授)
------	---------------------

第7号委員

島津 弘	(自然史関係学識経験者・地球環境科学部教授)
------	------------------------

b. 運営委員

第1号委員

池上 悟	(博物館長・文学部教授)
------	--------------

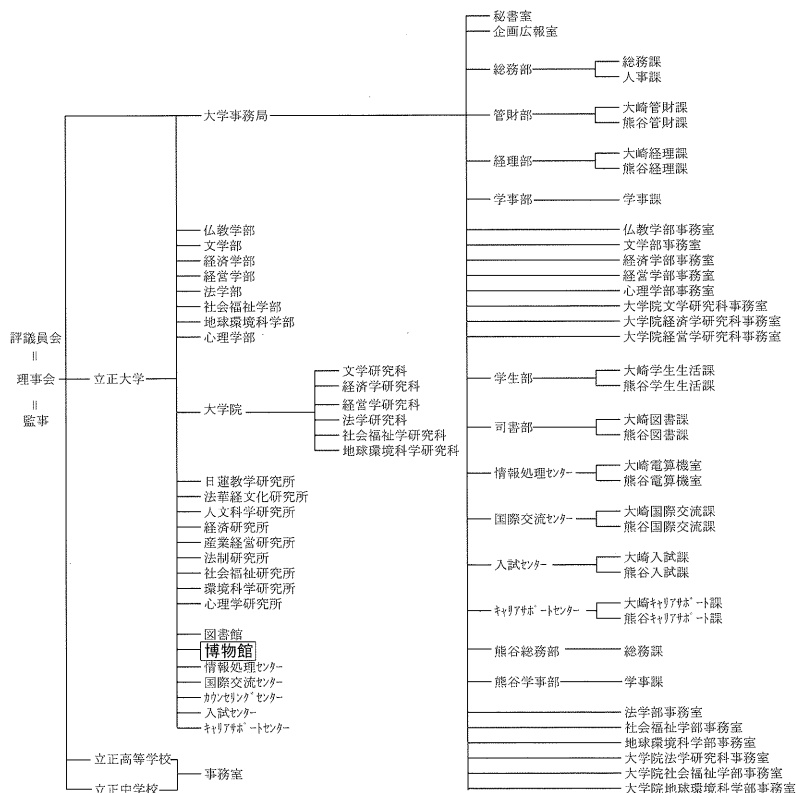
第2号委員

内田勇樹	(専門職員・非常勤嘱託)
------	--------------

第3号委員

鈴木隆史	(法学部長・法学部教授)
米林 伸	(地球環境科学部長・地球環境科学部教授)

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という)を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任

教職員より学長が任命する。

4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- 一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項

二 博物館の管理運営に関する事項

三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

- 2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式2）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。

二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した

場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

（資料等の利用料金）

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

二 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等を行う事業

三 学術研究

四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

（資料等の貸出）

第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書（様式3）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の貸出許可申請書（様式4）の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委

員会の議を経て決定しなければならない。

- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
- 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

- 第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。
- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
 - 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

- 第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。
- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。
 - 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。
 - 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

- 第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

様式 1

受付番号

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をいたしますので申請します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	分 閲 覧 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 撮 影 ・ そ の 他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式 2

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	分 閲 覧 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 撮 影 ・ そ の 他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

様式 3

受付番号

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 資 料				
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式 4

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

立正大学博物館長 印

年 月 日

様

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 資 料				
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式 5

受付番号

博物館資料寄贈申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

申請者 住所 氏名 電話 印

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

記

資 料 名	数 量	備 考

様式 6

受付番号

博物館資料寄託申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

申請者 住所 氏名 電話 印

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

記

寄 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資 料 名	数 量	備 考
寄 託 資 料					

様式 7

第 号 博物館資料受領証 様 年 月 日 立正大学博物館長 印	記 下記のとおり博物館資料として受領しました。
---	--------------------------------

資 料 名	数 量	備 考

様式 8

第 号 博物館資料受託証 様 年 月 日 立正大学博物館長 印	記 下記のとおり博物館資料として受託しました。
---	--------------------------------

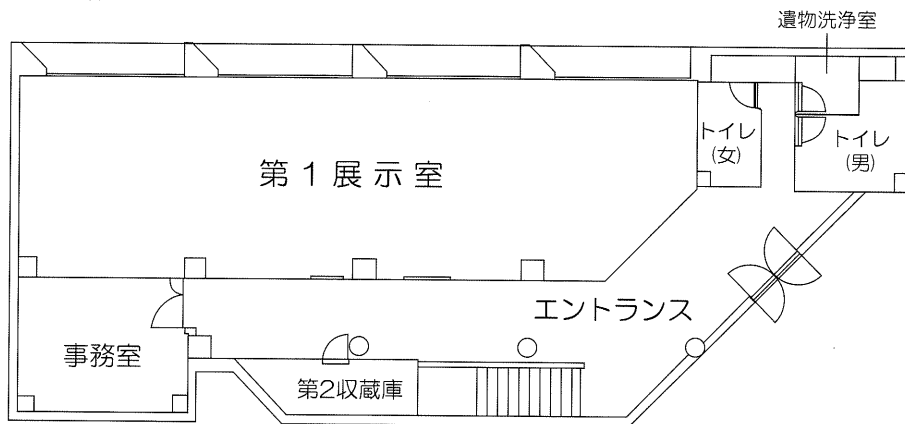
資 料 名	数 量	備 考	受 託 資 料

様式 9

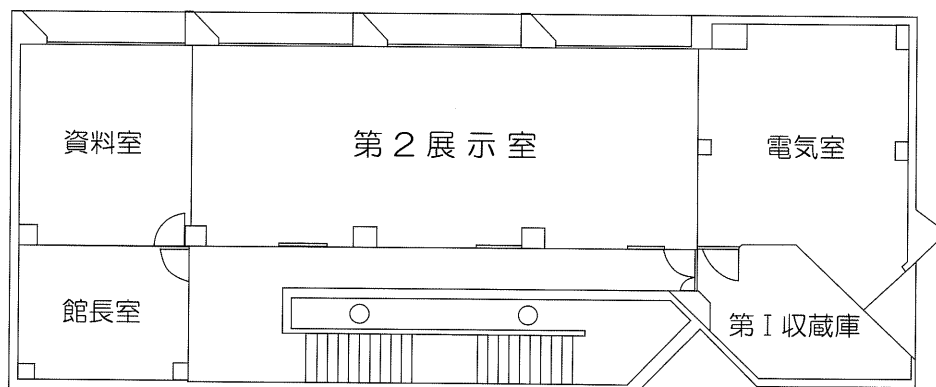
博物館資料借用書				
様		年 月 日		
		立正大学博物館長 印		
下記のとおり博物館資料として借用しました。				
記				
使用期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで			
借用理由				
借用資料	資料名	数量	備考	
取扱担当者				

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施 設



1階 平面図



2階 平面図

●建物

所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
 建築面積・・・376.8 m²
 構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室・・・93.88 m²
 事務室・・・17.10 m²
 第2収蔵庫・・・3.22 m²
 トイレ・・・11.01 m²
 遺物洗浄室・・・2.26 m²
 エントランス・・・45.64 m²

(2階)

第2展示室・・・71.22 m²
 館長室・・・16.98 m²
 資料室・・・23.89 m²
 第1収蔵庫・・・12.30 m²
 電気室・・・39.00 m²

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ミネラートン

(第2展示室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ミネラートン

(館長室・資料室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ジブトーン

●電気設備

受電設備・・・6.6KV
 変圧器設備・・・電灯ー100KVA 動力ー80KVA
 照明設備・・・展示室ーハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備・・・各室熱センサー取付、非常通報設備
 ITV設備・・・CCDカメラ4台、展示室等監視
 自動火災報知設備・・・P型1級5回線
 消火設備・・・粉末消火器9台

●空調設備

空調機・・・空冷式、パッケージエアコン(個別)

●給排水設備

給水設備・・・市水道使用
 給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

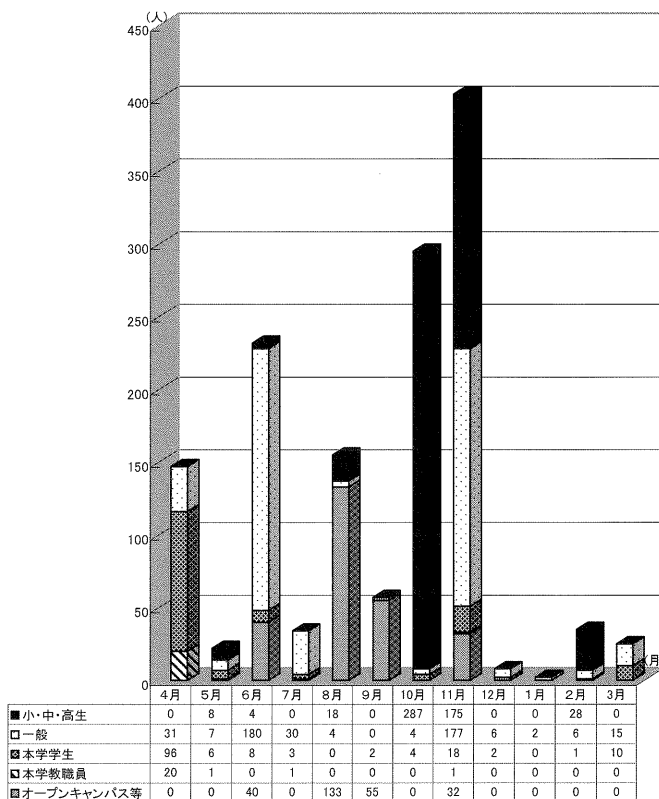
Ⅱ. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日の間の開館日数は、191 日開館である。基本的には、休館日（火・日曜日）および大学休業日である夏・春期休暇中は開館していないが、外部からの要望もあり出来る限り開館に努めた。

入館者数は、4 月が計 147 人、5 月が計 22 人、6 月が計 232 人、7 月が計 34 人、8 月が計 155 人、9 月が計 57 人、10 月が計 295 人、11 月が計 403 人、12 月が計 8 人、1 月が計 35 人、2 月が計 21 人、3 月が計 15 人、総計 1,424 人であった。

その内訳は、表 1 が示すように、小・中・高校生が計 684 人、一般が計 547 人、本学学生が計 365 人、本学教職員が計 114 人、オープンキャンパス時の入館者数が計 261 人であった。



平成 20 年度月別入館者数表

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 9 号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 10 号
- ・立正大学博物館年報 第 6 号
- ・館蔵資料「基礎」文献第 4 輯『撫石庵コレ

クション図録Ⅲー眞鍋孝志氏寄贈考古資料ー』

- ・第 5 回企画展『梵鐘ー撫石庵コレクションを中心にー』展示図録

- ・第 5 回特別展『吉田格 縄文文化研究の業績ー吉田格コレクションー』展示図録

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・平成 20 年 8 月 8 日（水）～11 月 30 日（日）
横浜市歴史博物館
吉田格コレクション 40 点（称名寺貝塚出土

骨角器 28 点 / 鹿角 3 点・称名寺貝塚出土貝輪 6 点）

(4) 常設展示・企画特別展示

1. 常設

－第1展示室（1F）－

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法（文化財保護法）によって定められた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器、板碑、東京都増上寺徳川将軍家関係墳墓出土の一字一石経などを展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具（鐘・鐸）のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。

とくに、伝樞原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝樞原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈された。

－第2展示室（2F）－

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏（立正大

学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒) 寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城－カピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるに至っている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。

2. 企画・特別展示

第5回企画展

「梵鐘－撫石庵コレクションを中心に－」

- ◆期間:平成20年6月2日(月)～7月5日(土)
- ◆内容:平成20年6月2日(月)より7月5日(土)の期間に、第5回企画展「梵鐘－撫石庵コレクションを中心に－」を開催しました。

今回の企画展では、新たに寄贈された撫石庵コレクション資料の紹介として、これまでの資料(『撫石庵コレクション考古資料図録Ⅰ・Ⅱ』平成12・13年刊)と合わせて展示しました。

展示では、撫石庵コレクションの紹介、梵鐘の製作工程、中世・近世の梵鐘として埼玉県の中世梵鐘や鋳型などを展示しました。

梵鐘の製作工程では、撫石庵コレクションの一つである「伝榎原市出土鐘」の復元鐘の製作工程を紹介しました。これは、眞鍋孝志氏によって平成18年11月に寄贈して頂いたもので、その際に鋳造の立ち合いの機会を与えて頂き、製作工程の一部を撮影させて頂いたものです(『万吉だより』6号 平成19年3月刊にて報告)。

また、この製作工程と関連して中世の鋳型と溶解炉を展示しました。これは、平成元年～2年にかけて(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団の発掘調査によって発見されたものです。遺跡は、埼玉県坂戸市に所在する金井遺跡で、中世の鋳造遺構が多数確認されています。

この他に、関東地方の中世・近世の鋳物師の主要な作品を写真パネルによって展示しました。中世では、埼玉県内に現存する川越市養寿院鐘(丹治久友作・文応元(1260)年)、日高市聖天院鐘(物部季重作・文応2(1261)年)、川越市喜多院鐘(源景恒作・正安2(1300)年)を取り上げ、関東地方で活躍した丹治、物部、広階、大中臣氏について現存する鐘の分布とともに解説を行いました。



第5回企画展 チラシ

近世では、粉川・関・加藤姓の鋳物師を取り上げ、写真パネルにて展示しました。粉川鋳物師は、撫石庵コレクションの半鐘にその鋳物師名が刻まれています。

また、大崎校舎における移動展を、7月7日(月)～7月31日(木)にかけて、5号館1階フロアで行いました。

◆講演会

日時:6月15日(日)13:30～15:30

場所:熊谷校舎2号館2201室

講演1「撫石庵コレクションについて」
講師 眞鍋孝志(元日本古鐘研究会会長)

講演2「武蔵の梵鐘鋳物師」
講師 赤熊浩一((財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)

日時:7月9日(水)18:00～19:30

場所:大崎校舎9B15教室

講演「千葉県の梵鐘」
講師 池上 悟(立正大学博物館館長・文学部教授)

第5回特別展

「吉田格 縄文文化研究の業績

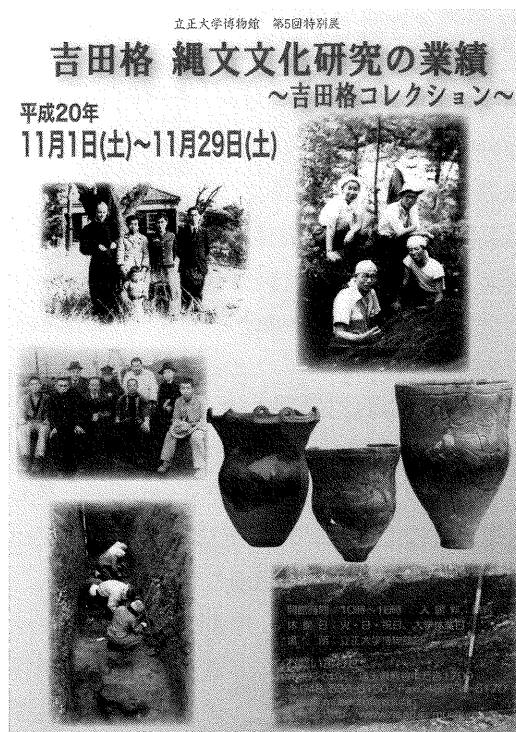
—吉田格コレクション—

- ◆期間:平成20年11月1日(土)～11月29日(土)
- ◆内容:平成20年11月1日(土)より11月29日(土)の期間に、第5回特別展「吉田格 縄文文化研究の業績—吉田格コレクション—」を開催しました。

立正大学博物館の貴重な収蔵資料のひとつに「吉田格コレクション」があります。「吉田格コレクション」は、吉田格氏〔大正9(生)～平成18年(没)〕が直接手掛けてきた膨大な発掘調査資料を、ご自身の出身校でもある立正大学に寄贈して頂いた縄文時代を中心とした貴重な資料です。立正大学の一つの学術的資産として、そして「立正考古」の研究と教育の資料として平成2年にご寄贈して頂いたものです。また、平成20年度にこれまでの資料に加え、吉田格氏所蔵の写真・図版・書籍などをご遺族の方から寄贈を受けました。

これまで吉田格コレクションは、一般に公開されていない資料でしたが、平成14年の立正大学博物館の開館に伴い、常設展示にて一般公開されるようになりました。しかし、吉田格コレクションの膨大な資料を一堂に展示することは難しく、今回の特別展では、特に吉田格氏の業績に係わる花輪台貝塚、城ノ台貝塚、称名寺貝塚を中心に展示を行いました。

吉田格氏は、昭和13(1938)年に立正大学専門部歴史地理学科に入学され、昭和16年12月に繰上卒業、翌年2月歩兵第42・鳥取連隊に応召、昭和21年4月に山口県仙崎港に帰還・除隊し、同年9月日本考古学研究所研究員になられました。その後、武蔵野博物館、東京都立武蔵野郷土館(現江戸東京たてもの園)に勤務され、一貫して縄文時代・先土器時代の研究を



第5回特別展 チラシ

されてきました。また、その間に立正大学・東京学芸大学にて教鞭をとられ、多くの学生たちの指導にあたられました。

吉田格氏の業績のなかでも、縄文時代早期の花輪台式、縄文時代後期の称名寺式土器の標式土器の設定は学界でも広く周知されているところです。

なお、大崎校舎における移動展を、12月1日(月)～12月20日(土)にかけて行いました。

◆講演会

日時:11月24日(月)〈熊谷校舎〉

13:30～15:00 1102教室

12月3日(水)〈大崎校舎〉

18:00～19:30 542教室

講演「立正大学博物館所蔵の吉田格コレクション」

講師 池上悟(立正大学博物館館長・文学部教授)

(5) 調査・研究

資料調査

平成 21 年 3 月 2 日（月）と 3 日（火）に、梵鐘の継続調査として、和歌山県紀ノ川市粉河町を訪れた。一昨年より調査を継続している粉河鋳物師の調査で、埼玉県美里町安光寺鐘（『立正大学博物館年報』4 号で報告）、福島県福島市に所在する粉河松之介鋳物師の作品（『立正大学博物館年報』5 号で報告）を調査してきた。

今回の調査で実見した梵鐘は、粉河寺所在の梵鐘である。大きさは、高さ 196.0cm、口縁径 115.0cm である。粉河寺本堂の向かって右手に所在する鐘楼に懸けられている。鐘楼に掛けられているため龍頭の詳細は観察できなかったが、2 頭の龍を合わせ扁平な宝珠を配置している。乳の間には 1 区内に 5 列 5 段、縦帯に 2 個つつ計 108 個の宝珠形の乳がある。

撞座は、径 16.0cm で 8 葉蓮華文で間弁が表されている。その内側には「雌蕊帯」と呼ばれる長さ 2.0cm の短い条が 28 本巡り、その中に蓮子を表した「中房」と呼ばれる中心部がある。

銘文は、池の間・縦帯全体に鐫刻されている。記念銘は元和 4（1617）年で、鋳物師は法華次衛門である。粉川に住む鋳物師かどうか不明とされているが、この粉河寺梵鐘が粉河鋳物師の先駆的な作品とされている。

粉川鋳物師は、和歌山県紀ノ川市粉河町に所在する粉河寺を中心に活躍した鋳物師である。粉河鋳物師の淵源は『粉河鋳物－粉河町内に分布する作品－』（粉河町教育委員会 平成 15 年 12 月刊）によれば、海神社金剛峯寺（和歌山県在）蔵梵鐘の康正 2（1456）年銘の作品がみられる。この梵鐘には「紀伊国那賀郡浦上御宝前之鐘…」とあり鑄工は藤原末次とある。

また、現在確認できる最古の梵鐘は寛永 20（1643）年の明覚寺梵鐘で、鋳物師は蜂屋正勝



粉河寺梵鐘



粉河寺梵鐘 撞座拡大

である。

粉河鋳物師は、江戸時代はじめに粉河寺門前において鋳物業が始まったとされ、おおよそ三つの集団にわかれていたことが指摘されている。一つは粉河寺を中心とした集団で、銘文中の鋳工名に「粉河住」と鐫刻している集団である。この集団には、「蜂屋」「福井」「木村」「松

村」「藤田」「増井」などの姓がみられる。

もう一つの集団は、銘文中の鑄工名に「粉河(川) 姓」を付す集団である。江戸神田を拠点として活躍した鑄物師で、「江戸神田住粉河何某」と鐫刻している。江戸の鑄物師は、粉河市正・木村将監・粉河丹後の三家が中心となって関東、東北に多くの作品を残している。

第3の集団は、紀州と江戸を交流しながら活躍していた鑄物師で、両方に分布が見られる鑄物師である。木村将監や木村三郎兵衛、粉河市正などの鑄物師が挙げられている。

博物館所蔵の半鐘は、『立正大学博物館年報』4号で報告したように鑄物師「粉河市正藤原宗次」の作であることがわかっている。この鑄物師名は、市谷八幡宮（東京都）の「粉河市正三宅宗次」（享保12（1727）年）の名が初見であり、その他に王蔵院（埼玉県さいたま市）の享保17（1732）年の鐘、寛保2（1742）年の安国寺（群馬県高崎市）梵鐘の「粉河市正 藤原宗次」、延享4（1747）年の高源寺（茨城県取手市）の「粉河市正宗次」、寛延元（1748）年の安光寺（埼玉県美里町）の「粉河市正 藤原宗次」などが確認できる。「粉河市正 藤原」姓は最初に宗信がみられ、ついで宗次、国信と続くとされている。宗次は1720～1750年ごろに活躍した鑄物師であるが、この間にも宗信、国信などの作品がみられることから3代が同時期に活動していたことがわかる。その後、宗信名が最後にみられる寛政8（1796）年以降、国信の名が踏襲されている。国信以降は撞座が定型化していくことから窺える。しかし、このことは江戸神田を基盤とした集団に見られることで、粉河寺を中心とした集団は、主として「蜂屋正勝」が代々襲名され、その他に「松村」「福井」などがみられる。

現存する梵鐘・半鐘が少なく『鐘銘集』など



粉河寺梵鐘 龍頭



粉河寺梵鐘 龍頭拡大

の記録を参考にしながらの考察であるが、今後点在する粉河鑄物師の梵鐘を中心に資料調査を進めていき、粉川鑄物師の集団のあり方を探り、近世鑄物師の実証的な検討を加えていきたいと思う。

（立正大学博物館学芸員 内田）

(6) 教育 普及

平成 20 年 8 月 4 日（月）から 8 月 9 日（土）、
及び 9 月 8 日（月）から 13 日（土）の 2 回に
わたって、文学部阪田正一特任教授・学芸員内
田勇樹で分担して館務実習を行った。

実習生：14 名（文学部史学科 7 名、地球環境
科学部環境システム学科 1 名、地球環境科学部
地理学科 4 名、地球環境科学研究科 1 名、科目
履修生 1 名）

(実習内容)

－第 1 回－

8 月 4 日（月）

・ 午前の部

館長挨拶・館務実習の説明

館の概要説明・館内施設の見学

文化史関係講演

（講師 郷田 良一氏（(財)千葉県教育振興財団））

・ 午後の部

刀剣の取り扱い

（講師 田嶋 和久先生）

8 月 5 日（火）

・ 資料の梱包

8 月 6 日（水）

・ 午前の部

自然史関係実習

（講師 島津 弘先生）

・ 午後の部

自然史関係実習

（講師 島津 弘先生）

8 月 7 日（木）

・ 施設見学（埼玉県立さきたま史跡の博物館）

8 月 8 日（金）

・ 拓本、裏打ち

8 月 9 日（土）

・ 午前の部

資料台帳作成

・ 午後の部

実習反省会

実習に参加して

－第 2 回－

9 月 8 日（月）

・ 午前の部

館長挨拶・館務実習の説明

館の概要説明・館内施設の見学

文化史関係講演

（講師 中島 秀男氏（㈱乃村工藝社））

・ 午後の部

刀剣の取り扱い

（講師 田嶋 和久先生）

9 月 9 日（火）

・ 資料の梱包

9 月 10 日（水）

・ 午前の部

自然史関係実習

（講師 島津 弘先生）

・ 午後の部

自然史関係実習

（講師 島津 弘先生）

9 月 11 日（木）

・ 施設見学（埼玉県立さきたま史跡の博物館）

9 月 12 日（金）

・ 拓本、裏打ち

9 月 13 日（土）

・ 午前の部

資料台帳作成

・ 午後の部

実習反省会

実習に参加して

(7) 寄贈資料

◆吉田格氏寄贈資料

平成 20 年 4 月 20 日及び 7 月 29 日に、吉田格氏（1920 ～ 2006 年）のご遺族から資料の寄贈を受けました。吉田格氏は、縄文文化の研究をされ、花輪台式・称名寺式土器などの標式土器などを設定された研究者です。吉田氏は、昭和 13（1938）年立正大学専門部歴史地理学科に入学され、昭和 16 年 12 月繰上卒業されました。昭和 17 年 2 月に歩兵第 42 鳥取連隊に応召し、昭和 21 年 4 月に帰還・除隊されました。同年 9 月に日本考古学研究所研究員となられました。その後、武蔵野博物館、東京都立武蔵野

郷土館に勤務されました。その間に立正大学・東京学芸大学にて教鞭をとられ、多くの学生たちの指導にあたられました。また、吉田格氏が直接手掛けられてきた発掘調査などで得られた膨大な資料を、「吉田格コレクション」として立正大学に寄贈して頂きました。

今回寄贈して頂いた資料は、文献・写真を中心とする資料です。これまでの実物資料である「吉田格コレクション」に加えて、新たな博物館の資料として役立てていきたいと思います。

今回の報告では資料点数の報告とします。

平成 20 年度吉田格氏寄贈資料（内容）

書籍類

発掘調査報告書・・・861 冊
年報など・・・・・・153 冊
単行本・・・・・・462 冊
図録・・・・・・128 冊
雑誌など・・・・・・523 冊

写真類

スライドフィルム・・・2524 枚
ガラス乾板・・・・・・36 枚
ネガフィルム・・・・・・125 枚

◆眞鍋孝志氏寄贈図書

- ・泉屋博古 中国古銅器編
- ・鑄物の年輪－高岡鑄物師史料解説－
- ・鑄物発祥の地と鍋宮大明神 鑄物師国・郡・別名簿
- ・音響学史及び梵鐘音の時代的変遷に関する研究
- ・季刊 文化遺産 第 11 号 春・夏号
- ・慶長以前鰐口・雲版年表稿 付鰐口鑄物師一覧 朝鮮金鼓
- ・敦煌・雕塑・魏晋南北朝
- ・敦煌・雕塑・唐代
- ・甲賀市文化財ガイド 甲賀を繙く
- ・悉曇要軌
- ・讃岐 札所の梵鐘
- ・書道博物館図録
- ・上州 白井吹屋の鑄物
- ・地方の零

- ・鑄造遺跡研究資料 2006 小論集 日本古代の鑄物生産
- ・鑄造遺跡研究資料 2007 世界鑄物紀行① 鐘 ZHONG BELL GLOCKE CLOCHE は語る
- ・日中梵鐘の鑄造技術と鑄造工人 平成 19 年度 文部科学省科学研究補助金 特別研究促進費 日中中世における銅鑄の金属生産とその流通に関する研究
- ・のんびり歩こう関東古寺巡礼 うるおい情報シリーズ 14
- ・般若心経の道
- ・福野村鑄物師考
- ・北京古鐘 上
- ・北京古鐘 下
- ・北京歴史散歩

Ⅲ. 寄贈図書目録(2008年4月～2009年3月)

<青森県>

青森市教育委員会

- ・青森市埋蔵文化財情報 いにしえ青森 Vol. 16
- ・青森市埋蔵文化財調査報告書 新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ

青森市埋蔵文化財調査報告書

- ・第95集 (4) 遺跡 発掘調査報告書
- ・第96集 葛野遺跡群 発掘調査報告書
- ・第97集 市内遺跡 発掘調査報告書 16

八戸市教育委員会

八戸市埋蔵文化財調査報告書

- ・第116集 新井田古館遺跡 宅地造成・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書
- ・第117集 八戸市内遺跡発掘調査報告書 2
- ・第118集 田向冷水遺跡Ⅲ 田向土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 3
- ・掘り day はちのへ 第11号

<宮城県>

東北大学史料館

- ・東北大学史料館だより No. 9

<福島県>

福島県文化財センター白河館

- ・まほろん通信 Vol. 28・29・30・31
- ・金の冠鐵のかぶとー東京国立博物館収蔵資料に見る ふくしまの古墳時代ー

<茨城県>

取手市埋蔵文化財センター

- ・第24回企画展 縄文時代の研究と中妻貝塚

<栃木県>

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

- ・第22回秋季特別展 終末期古墳と官衙の成立ー下野国河内郡の様相を中心としてー
- ・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第22号 (平成19年度)

栃木県立なす風土記の丘資料館・小川館

- ・第15回企画展 川でつながる縄文人ー交流と交易から見た那須ー

栃木県立なす風土記の丘資料館

- ・第16回企画展 那須の渡来文化

芳賀町総合情報館

- ・芳賀町総合情報館開館記念展 福田たね 青木繁のロマン

<群馬県>

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書

- ・第429集 山根Ⅲ遺跡(2) 上原Ⅳ遺跡幸神遺跡 八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

- ・第433集 長野原一本松遺跡(3) 八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

- ・第436集 横壁中村遺跡(6)ー土坑編ー 八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第437集 前道下遺跡(2)ー旧石器時代編ー 北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域並びに(一)香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第438集 上郷岡原遺跡(2) 八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

- ・第439集 横壁中村遺跡(6)ー土器埋設遺構・掘立柱建物・環状柱穴列・柱穴列・集石・焼

- 土編－八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第22集
- ・第441集 長野原一本松遺跡(4) 八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第24集
- ・第442集 利根郡川場村 西川原古墳群 村道生品秋塚線道路改良関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第444集 下田遺跡(2) 北関東自動車道(伊勢崎～県境) 地域埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第445集 亀泉坂上遺跡 一般国道17号(上武道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2) 報告書
- ・第446集 福島飯玉遺跡 国道354号線道路改築事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
- ・第447集 西野原遺跡(3)(4) 島谷戸遺跡 北関東自動車道(伊勢崎～県境) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第449集 大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ 東毛幹線(大泉工区) 街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第450集 多比良天神原遺跡Ⅱ 地方特定道路整備事業(主要地方道神田吉井停車場線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第451集 菅塩遺跡群 北関東自動車道(伊勢崎～県境) 地域埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第452集 本関町古墳群 国道462号道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・遺跡に学ぶ 第31号
- ・研究紀要 26
- ・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団年報 27
- ・埋文群馬 No. 48

<埼玉県>

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館研究紀要 第11号
- ・朝霞市博物館活用授業実践事例集 Ⅳ
- ・朝霞市博物館調査報告書第5集 館有史料概要目録(相沢家文書)
- ・第23回企画展 平安王朝－源氏物語の時代－跡見学園女子大学花菱記念資料館
- ・にいくら NIIKURA No. 13 入間市博物館
- ・入間のものづくり アリットフェスタ2008 特別展図録
- ・NEWS-ALIT 第44・45・46号 浦和くらしの博物館民家園
- ・さいたま市指定有形文化財 旧高野家住宅移築復原事業・旧高野家離座敷修理事業報告
- ・みんかえんだより No. 34 大井郷土資料館
- ・天王様－信仰とその民俗－平成20年特別展 桶川市教育委員会
- ・平成19年度 桶川市内遺跡発掘調査報告書 諏訪久保Ⅰ遺跡発掘調査範囲確認調査 桶川市歴史民俗資料館
- ・桶川市歴史民族資料館文書調査報告書第3集 桶川市指定文化財 増田家文書目録 付古文書資料 春日部市教育委員会
- 春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第4集 神明貝塚4次地点塚崎遺跡7.8次地点
- ・第5集 小湊山下遺跡6次地点
- ・第6集 犬塚遺跡6次地点・中野吉岡遺跡1.2次地点・小湊山下遺跡5次地点・小湊山下北遺跡9.10次地点
- ・春日部市庄和町史編さん資料(15) 中世・近世資料 金子彰男氏
- 神泉村教育委員会文化財調査報告書
- ・第1集 平西遺跡発掘調査報告書

・第2集 平遺跡発掘調査報告書－F地点の調査－

・第3集 村内遺跡発掘調査報告書－平遺跡G地点の調査及び村内遺跡試掘調査－

・第4集 門野遺跡・中居遺跡・平西遺跡・松の平遺跡発掘調査報告書

神川町遺跡調査会発掘調査報告

・第7集 愛染遺跡第6・7・8・9・10地点
青柳古墳群元阿保支群

神川町埋蔵文化財調査報告

・第1集 元屋敷遺跡関口1号墳 真下堺西遺跡第2地点

・第2集 門野遺跡・木ノ下第2遺跡発掘調査報告書

・第3集 中道遺跡第13地点

神川町教育委員会文化財調査報告

・第21集 中新里諏訪山古墳－第2次・3次調査－

・第22集 大塚稻荷古墳－第2次・第3次調査－

・幸魂－増田逸郎氏追悼論文集－

・殿山南遺跡 第3次発掘調査報告書

上福岡歴史民俗資料館

・第23回特別展 河岸場と河岸道～新河岸川舟運を中心に～

上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館

・資料館通信 第61号

川越市立博物館

・川越市立博物館 収蔵文書目録（十）元町戸田家文書

・第31回企画展 大名行列－描かれた松平大和守家の行列－

・博物館だより 第53・54・55号

川口市立科学館

・年報 平成18・19年度

騎西町遺跡調査会

・騎西町遺跡調査会報告書第3集 萩原遺跡
第2・3・6・7次発掘調査報告書

熊谷市立熊谷図書館

・平成20年度企画展 一所蔵品を中心に－
昔のくらし展

栗橋町教育委員会

・栗橋町史 資料編1 原始・古代・中世

・栗橋町史 民俗I

鴻巣市教育委員会

・鴻巣市文化財調査報告第14集 鴻巣市遺跡群13・九右衛門遺跡（4・5・8次調査）・箕田4号墳

・鴻巣の文化財 第7号・第8号

埼玉県立川の博物館

・かわはく No.32・33

・紀要 8号

・巨大昆虫の世界パート2－でかい虫・へんな虫－

・水たまりのある風景－埼玉県の湖沼池を訪ねる－

埼玉県立さきたま史跡の博物館

・館報 No.3

・最新出土品展－地中からのメッセージ－

埼玉県立嵐山史跡の博物館

・板碑が語る中世～造立とその背景～

埼玉県立歴史と民俗の博物館

・埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧 第3号

・THE A MUSEUM Vol.3-2（通巻第8号）

・名もなき至宝－うけつがれし重要有形民俗文化財－

さいたま市立博物館

・第20回企画展 学校の思い出－教科書・机・ランドセル－

・第32回企画展 さいたまの古墳

さいたま文学館

・石井桃子とピーターラビット－海外の児童文学を子どもたちへ－

- ・かな女と楸邨一書で楽しむ俳句の世界ー
- ・館報 第11号
- ・企画展 よみがえる歴史ヒーローの伝説ー直実、重忠、静御前たちと文芸作品ー
- ・研究紀要 第20号
- ・テーマ展「マンガ聖地巡礼 in サイタマ☆〜文学 VS マンガ part2〜」

鶴ヶ島市遺跡調査会

- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告第62集 若葉遺跡W地点・X地点・Y地点発掘調査報告書

戸田市教育委員会

- ・戸田の伝統漁撈 荒川とともに生きる

戸田市立郷土博物館

- ・古の道と川端のくらし〜下笹目・美女木の原風景と想い〜
- ・研究紀要 第21号
- ・戸田市立郷土博物館だより 第36号
- ・戸田市立郷土博物館要覧 2008年度（平成19年度事業報告）

- ・第24回特別展 星へのあこがれ

戸田市立図書館・郷土博物館

- ・研究紀要 第20号
- ・戸田市立郷土博物館報告書 第7集金子家住宅調査報告書

日本工業大学工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース No.68・69
- ・日本工業大学収蔵 登録有形文化財一覧

鳩ヶ谷市立郷土資料館

- ・特別展古墳時代の鳩ヶ谷を探るー三ツ和遺跡とその時代ー

鳩山町教育委員会

- ・鳩山町埋蔵文化財調査報告書第32集 町内遺跡Ⅷー城添遺跡発掘調査報告書ー
- ・鳩山町埋蔵文化財調査報告書第33集 埼玉県比企郡鳩山町追ヶ谷戸遺跡発掘調査報告書

羽生市立図書館・郷土資料館

- ・第31回特別展 宮澤章二と校歌ーふるさとの風と光をうたうー

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第90集 上本田遺跡Ⅱー2次〜6次、8次調査の記録ー
- ・第91集 川端遺跡1次調査、荷鞍ヶ谷戸遺跡2次調査、向山遺跡1次調査
- ・第92集 居立（第2次）／森吉古墳／下郷
- ・第93集 吹張遺跡
- ・第94集 深谷市内遺跡XⅤー熊野遺跡第114次調査ー
- ・第95集 四十塚古墳群ー第4次調査ー
- ・第96集 水窪遺跡ー第3次調査ー
- ・第97集 橋屋遺跡（第2次）
- ・第99集 幡羅遺跡Ⅲ ー実務官衙域の調査（1）・道路跡の調査ー
- ・第100集 亥ノ堀遺跡 諦光寺廃寺 鹿島遺跡（5次調査）

- ・第101集花小路遺跡

- ・2008年企画展「古墳時代の深谷」ー市内出土の遺物を中心にしてー

- ・2008年度企画展『律令時代の郡役所』

- ・〈国重要文化財〉日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設【臨時公開・説明会】パンフレット

富士見市立難波田城資料館

- ・平成20年春季企画展 草屋根の年中行事

富士見市立水子貝塚資料館

- ・富士見に海が来た頃 打越式土器とその時代

宮代町郷土資料館

- ・平成20年度特別展 宮代町と岩槻城

毛呂山町歴史民俗資料館

- ・第16回特別展図録 実篤が見た風景ー日向の村・東の村と毛呂山の人々ー 新しき村開村九十周年記念

立正大学大学院地球環境科学研究所

オープンリサーチセンター

- ・立正大学 文部科学省学術研究高度化推進事業 オープンリサーチセンター（ORC）整備事業 平成 19 年度事業報告書

蔵市立歴史民俗資料館

- ・岡田善休資料集
- ・第 19 回平和祈念展「駅弁・記念切符でたどる戦中・戦後」

<千葉県>

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第 5 号
- ・(財)千葉県教育振興財団 房総の文化財 VOL. 45

橘考古学会

- ・『多知波奈の考古学』－上野恵司先生追悼論文集－
- ・東国古墳文化論攷－上野恵司先生著作集－
- 千葉県立関宿城博物館
- ・千葉県立関宿城博物館 研究報告 第 12 号

<東京都>

板橋区立郷土資料館

- ・企画展 板橋と光学 ー国産フィルム発祥の地光学王国ー

大田区立郷土博物館

- ・雪ヶ谷貝塚 縄文時代前期の文化と環境
- お札と切手の博物館（国立印刷局博物館）
- ・お札と切手の博物館ニュース vol. 24・Vol. 25

学習院大学 学芸員資格取扱事務室

- ・学芸員 Bulletin for Curator's Course No. 12

㈱文化環境研究所

- ・Cultivate 第 32・33 号
- ・文環研レポート No. 26・27

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒大史ブックレット 7 「図書館誌」にみる駒大図書館史【その 3】

- ・道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』

- ・駒大史ブックレット 8 「図書館誌」にみる駒大図書館史【その 4】

- ・駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵の仏教遺物考古資料展 3「東アジアの仏教遺物」図録
- ・駒澤大学禅文化歴史博物館年次報告書（平成 13～19 年度）

(財) 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

- ・企画展図録 渋沢家の雛祭り
- ・企画展図録 日本人を南米に発展せしむ 日本人のブラジル移住と渋沢栄一
- ・青淵 第 710～719 号

(財) 日本博物館協会

- ・地域と共に歩む博物館育成事業 博物館支援
- ・地域と共に歩む博物館育成事業 博物館の評価機関等に関するモデル調査研究報告書 策にかかる各国等比較調査研究
- ・地域と共に歩む博物館育成事業 博物館の評価基準に関する調査研究
- ・博物館研究 Vol. 43 No. 9 通巻 483 号～Vol. 44 No. 2 通巻 488 号

- ・みんなのできる 楽しい理科教材

櫻井徳太郎文庫（板橋区公文書館付設）

- ・櫻井徳太郎展－板橋を愛した民俗学者－

実践押女子学園香雪記念資料館

- ・ANNUAL REPORT 実践女子学園香雪記念資料館館報第 5 号（平成 19 年度）

女子美術大学

- ・女子美 No. 160～No. 162

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「集」 31 号

東京家政学院生活文化博物館

- ・第 20 回特別展示『写真展 あの時、あの時、

『相模川から境川周辺の風景』

独立行政法人 国立科学博物館

・自然と科学の情報誌〔ミルシル〕 No.3

2008 Vol.1 第1巻第3号(通巻3号)・No.4

2008 (Vol. 1)・第1巻第5号(通巻5号)・

No.6 2008 (Vol. 1)・No.1 2009 (Vol.2)

明治大学博物館

・明治大学博物館研究報告 第13号

(財)日本博物館協会

・博物館研究 Vol.43 No.5 通巻479号・Vol.43

No.6 通巻480号

立正大学経営学会

・立正経営論集 第40巻第1・2合併号・第41
巻第1号

<神奈川県>

大磯町郷土資料館

・大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗(生活)
資料―自然物採集・稲作・畑作・山樵・製塩・
養蚕・畜産― 資料館資料12

・大磯町郷土資料館開館20周年記念展

Collectibles Oiso

・Report 大磯町郷土資料館だより No.29

横浜市歴史博物館

・縄文文化円熟―華蔵台遺跡と後・晩期社会―

・横浜市歴史博物館 NEWS No.26

<長野県>

長和町教育委員会

・概報・鷹山遺跡群4 長野県小県郡長和町鷹
山遺跡群2007年度調査概報―遺跡整備に伴
う星糞峠黒曜石原産地遺跡第1号採掘址の調
査―

<新潟県>

新潟大学旭町学術資料展示館

・新潟大学脳研究所 中田瑞穂記念室 所蔵品
目録

<富山県>

富山県教育委員会

・四方荒屋遺跡発掘調査報告書

・太閤山カントリークラブ地内遺跡群 発掘調
査報告書(2)

富山県埋蔵文化財調査報告

・18 富山県向野池遺跡発掘調査報告書

・21―(1) 富山県富崎遺跡 発掘調査報告書
―一般国道472号道路改良事業に伴う埋蔵文
化財発掘調査報告書(1)―

・21―(2) 富山県富崎遺跡 発掘調査報告書
―一般国道472号道路改良事業に伴う埋蔵文
化財発掘調査報告書(2)―

・22 富山県八町Ⅱ遺跡 発掘調査報告書 ―
県営農免道(呉羽合2期地区)整備事業に伴
う埋蔵文化財発掘調査報告書

・23 富山県四方荒屋遺跡発掘調査報告書

・24 富山城試掘確認調査報告書

・25 富山県内遺跡発掘調査概要Ⅲ ―若竹町
遺跡・富崎遺跡―

・26 富山県北押川B遺跡発掘調査報告書 ―
呉羽南部企業団地開発工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告書(2)―

・27 富山県 北押川C遺跡御坊山遺跡発掘調
査報告書―呉羽南部企業団地開発工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書(3)―

・29 富山県 鶴坂Ⅰ遺跡発掘調査報告書

・143 富山県水橋専光遺跡発掘調査報告書―
「あいの里」分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告―

・富山県教育委員会 埋蔵文化財センター所報
富山県の遺跡物語 No.9

・富山県三熊内窯跡群発掘調査概要

- ・浜黒崎悪地遺跡 野中新長幅遺跡 県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（針原北部地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要（2）

富山市考古資料館

- ・富山市考古資料館紀要 第27号
- ・富山市考古資料館報 No.45

<静岡県>

東海大学社会教育センター

- ・海のはくぶつかん Vol.38 No.2（通巻218号）
～ Vol.39 No.1（通巻221号）
- ・東海大学社会教育センター年報 No.35

<三重県>

松阪市教育委員会

- ・平成19年度松阪市文化財センター年報
- ・松阪市埋蔵文化財報告書7 三重県松阪市下村町所在 上村遺跡

<京都府>

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館年報 第11号

<兵庫県>

関西学院大学博物館開設準備室

- ・本に貼られた版画一蔵書票の美ー 原野コレクション I

<高知県>

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第64～66号
- ・高知県立歴史民俗資料館年報平成19年度
No.17

<福岡県>

九州産業大学美術館

- ・ひらめきアートプログラム実践事例集

- ・幼児版ひらめきアートハンドブック 平成19年度文部科学省「総合的な放課後対策推進のための調査研究」報告書

- ・平成18・19年度 九州産業大学美術館年度報告書No.3

- ・平成19年度『学びあい、支えあい』地域活性化推進事業」福岡市立こども病院・感染症センター「癒しの空間プロジェクト」報告書

筑紫野市教育委員会

- ・筑紫野市文化財調査報告書第92集 阿志岐城跡 阿志岐城跡確認調査報告書（旧称宮地岳古代山城跡）

<鹿児島県>

鹿児島大学総合研究博物館

- ・news letter No.17・18・19

肝付町教育委員会・鹿児島大学総合研究博物館

- ・大隈串良 岡崎古墳群の研究 鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.3

- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No.6

- ・古墳に眠る肝属の王ー塚崎古墳群の時代ー肝付町歴史民俗資料館 特別展資料

立正大学博物館年報 7

(平成 20 〈2008〉 年度)

平成 21 (2009) 年 4 月 31 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒 360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷 アサヒ印刷株式会社)